

■事務局からのお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.大阪湾フェニックス 3 期神戸沖埋立で準備書、77ha、着工後約 8 年で護岸

大阪湾広域臨海環境整備センターは 1 月 27 日から 3 月 13 日までフェニックス 3 期神戸沖埋立処分場（仮称）設置事業に係る環境影響評価準備書の縦覧を行っている。現在利用中の 2 期神戸沖埋立処分場に隣接する約 77ha を 3 期神戸沖埋立処分場として計画しており、廃棄物（土砂）の受入れ容量は約 1 5 0 0 万立方 m。概ね 8 年をかけて廃棄物埋立護岸を整備、概ね 20 年程度にわたって廃棄物を受け入れていく。

2.港湾局関係第 3 次補正予算 1 3 0 4 億円。ポストコロナ、国土強靱化 5 カ年加速化対策等

1 月 28 日の参議院本会議で可決・成立した今年度の第三次補正予算において、国土交通省港湾局関係予算（事業費ベース、ゼロ国債含む）は 1 3 0 4 億 3 0 0 0 万円となった。内訳はポストコロナに向けた対策に約 1 2 9 億 3 3 0 0 万円、防災・減災、国土強靱化のための 5 カ年加速化対策関連として約 9 0 6 億 6 5 0 0 万円（港湾整備事業 8 5 1 億 6 3 0 0 万円、港湾海岸事業 5 5 億 0 2 0 0 万円）を配分。これら合計額の 1 0 3 5 億 9 8 0 0 万円のほか、ゼロ国債として 2 6 8 億 3 2 0 0 万円を計上している。

3.CNP、6 地区 7 港で第 1 回検討会を開催

国土交通省港湾局が検討開始している脱炭素化に配慮した港湾機能高度化の取組み「カーボンニュートラルポート（CNP）」の基礎的検討対象港として選定されている新潟港、小名浜港、横浜港・川崎港、名古屋港、神戸港、徳山下松港において、これまでにそれぞれ第 1 回の CNP 検討会が行われた。

各地区とも年度内に合計 3 回の検討会を持ち、とりまとめを行う。

4.福井県、敦賀港長期構想まとめ。鞠山地区物流機能の強化など

福井県は1月27日、敦賀港長期構想検討会（委員長・須野原豊日本港湾協会理事長）を開催し、概ね20年～30年先を見据えた長期構想案をまとめた。今後、パブリックコメントの手続きや県議会承認などを経て年度内に構想を策定する。令和3年度には敦賀港の次期港湾計画改訂に向けた作業に入り、同年度の改訂を目指す。

長期構想では物流、安全・安心、交流、環境の4つの方向性に基づき、物流ゾーン、交流ゾーン、エコゾーンに分け、それぞれの空間利用の方向性を示している。

このうち物流施策では世界水準の高効率な港の実現として、鞠山南地区における日本海側高規格ユニットロードターミナルの形成、東南アジアに向けたダイレクト航路の形成等。また、環境面では低炭素化、再生エネルギーリサイクルの推進、北陸電力石炭火力発電のバイオマス混合燃焼の促進、LNGインフラの誘致など。

※港湾空港タイムス2月8日号から編集